

2023年度第2回中央委員会

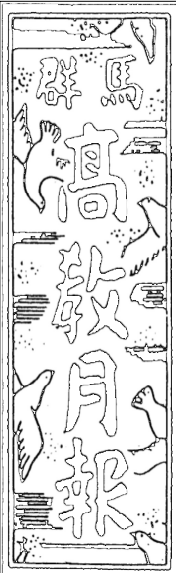
入試日程や1日5教科、採点業務や追試験、非常勤の勤務振替で議論沸騰

2回中央委員

教え子を再び戦場に送るな！

憲法を守れ

子どもたちを未来を手渡そう



前橋市大手町 3-1-10
群馬高教組
027-231-2784
ghtu@educas.jp
http://www.ghtu.org/

3月3日(日)、第2回中央委員会が教育会館中会議室で開催されました。学年末考査から初の一本化入試・卒業式と過密スケジュールを受けての開催ということもあり、入試についての発言が続出した後、すべての議案が承認されて会議は終了しました。議長の坂本さん・春山さん、議運の坂田さんには大変お世話になりました。寄せられたご意見は、3月12日の春闘期要請行動で県教委に訴えていきます。慌ただしい年度末ですが、新年度へ向けて、みんなで結束して頑張りましょう。

高校入試

水田委員長挨拶 (要旨)
高校入試から卒業式とお疲れのところ、ご参加ありがとうございます。3年の副担任をしているので、卒業生に「自分に少し負荷をかける」と話しました。組合にとっても「今自分に何が出来るのか？」分岐点にあると思います。できない理由を探すのではなく、できることを少しでもやるのが大事です。一人ひとりの組合員が小さなさざ波を起こせば、やがて大きな波になります。前橋市長選では小川さんが当選を勝ち取る画期的な結果となりました。ウクライナや中東の深刻な状況をどう打開するのか、能登半島の被災者救済、原発の問題にどう取り組むのか、課題はたくさんありますが、平和をめざし、子どもたちと教職員・組合の明るい未来を切り拓くべく、活発なご議論をお願いします。

○入試では、大問入力がよりモチエツクの方が大変だった。非常勤の先生方の振替は教頭が確認していたが、大変そうだった。
○数学の回収が1枚になったのはよかったです。試験の日はきつかったが、採点は3日間ですっきりできました。
○入試一本化は組合が要求して実現したこと、採点ミスをなくすよう、県教委に繰り返し改善を求めてきた。交渉で勤務時間内に採点業務が行われるよう管理職に働きかけていきたい」と県教委
は回答したが、実際には採点にかかる時間が教科によって相違がばらついており、社会は遅くまでかかった。受検生も1日5教科で負担だったのではないかと？
○受検生は午前中よくやっていたが、午後になると落ち着きがなくなったり居眠りしているという声もあつた。
○社会と国語で採点が大変だった。2月よりも3月初旬の方がよいと思う。3月の授業はダダ下がり、何とかならないかと思う。
○入試前日になって、英語放送について今までとは真逆の指示があつたため、入試



議長の春山さん(左)・坂本さん(右)

業務が中断した。合格発表の翌日に追試験ではなく、追試験をやった後に発表とすべきではないか？
○担任として卒業生を送り出したが、学年末考査から入試、卒業式と休む間もない。現状があるから発信しないと話にならない。500人以上(実数は300人台)の全非常勤教員に伝えようとしてきた。希望調査や入試の勤務振替が伝わっていかつたり、振替できずに年休で対応しているケースもあつた。年休を増やす必要がある。アンケートは15人から回答があつた。
○初めて非常勤となり、勤務振替の文書を渡されたが、わかりづらい表現だった。労働契約を知らされていないなど、改善すべきことがたくさんあると感じている。前女は連日19時半まで採点だったとあって、採点しやすくしてほしいと言われた。入試にも働き方改革が求められる。

臨時教職員問題

○非常勤ニュースやアンケートに取り組み
○初めて非常勤となり、勤務振替の文書を渡されたが、わかりづらい表現だった。労働契約を知らされていないなど、改善すべきことがたくさんあると感じている。前女は連日19時半まで採点だったとあって、採点しやすくしてほしいと言われた。入試にも働き方改革が求められる。

地域や部活動の課題

○防犯パトロールのボランティアを行うには事前会議に出るのにはパトロールではないと人事課から回答があったが、方針を決めなければ活動はできないのでおかしなところ。地域社会とつながる色んなものが見えてくるので、教員にとつて貴重な経験となるはず。感覚がおかしい。定時制は3人再任用など高齢層が多く、生徒からは「先生の言うことは古い」と言われる。担任をやっていると自信をなくすこともある。一言で言つて、人事がひどい。

○今回の「教育のつどい」は大阪から神谷先生に来てもらい、豊富な資料に基づいてご講演いただいた。部活動の地域移行は「金をかけずにいかにそれっぽいことをやるか」とバックボーンにある。仰つていた。2014年の方向転換が大きい。現状では、顧問の負担軽減のために、生徒が主体的に運営する方向に持つていく必要がある。

○2014年の安倍首相・下村文科大臣・谷川副大臣・自民党安倍派文教族の池田が何をやったかを忘れてはいけないが、マスコミは裏金問題を報じるだけで政治家(屋)と

して何をやったかは取り上げない。経産省主導で塾のようにお金を出して地域クラブへ行けばよいのでは、地方では成り立たないし、生徒の自主性も育たない。

○ニュージージラントのラグビーは家族ぐるみで人を育てている。地域がしっかりしているかが課題ではないか?地域移行で地域が活性化すればよいが高校の現実を見ていないのでは、ないかという不安もある。

○義務校では急いで進めている話を聞くが、指導者が確保できずに進むのでかえつて生徒間がやこしくなつてしまうケースもあり、仕事が増えたと感じることもあるようだ。

○部活動は学校での居場所づくりとして重要だが、それでも切り離れた方がよいのではないか?本来授業を担当するだけの非常勤が、書道や和太鼓の顧問をしているといった現状から切り離して、部活動を再構築することも必要である。

○PTAとして関わっているが「ただ地域移行しただけで現場は困っている」と校長が言っていた。社会全体で支えるしくみをつくる必要がある。

組織拡大へ向けて

○萩原書記長から「見える化」という話があったが、人と人とのつながり、学校を訪問して話をするのが大事だと思つてきた。青年部は青年でつなぐ必要がある、青年部をニューズを出すとか、大変だが見える動きをつくらべきだ。

○総合共済の加入は33人で、現勢回復を達成した。未組織校への全職員チラシ送付による加入が半数以上となつている。共済カフェは日時と場所だけ決めてもらえれば後はこちらが準備するので、人が集まらないのではないかと気にせずに、まずは気軽にやってみてほしい。自動車保険も反応はあるので、加入につなげたい。

萩原書記長総括

○一本化されて初の高校入試の課題、非常勤講師の待遇改善、「教育のつどい」の振り返りや部活動問題など、活発なご意見をいただき、ありがと

うございました。春闘に合わせて、3月12日に対県教委「春闘期要請行動」を行うので、その場でも訴えていきたいと考えています。役員選挙の投票では、不信任2票を入れていただき、健全でよいことだと感じています。色んな意見や考えを出し合い、会議の場で議論することが大事です。今年度の高教組のスローガン「仕方がないを変えていこう!当たり前が実現できる職場にしよう!」を胸に、共に頑張りましょう。



県高校教職員ボウリング大会開催!

本部・玉村合同チームが白熱したゲームを制す

2月23日(金・祝)、第20回群馬県高等学校教職員ボウリング大会がエメラルドボウル(前橋市)にて開催されました。今回は新たな試みとして、通常のルールを変更して行いました。チームの団結力が試された新ルールにより、ボウルだけではなく頭の中もぐるぐる回転させながらの白熱した試合展開となりました。参加は7チーム21名と少なめでしたが、ご家族の参加もあり、笑顔があふれる楽しい一日となりました。次回は6月を予定しています。腕に自信がある人も、ちょっと腰が痛い人も、みんなで一緒に楽しい汗を流しませんか?多くの方の参加をお待ちしています。



見事優勝した本部・玉村合同チーム

【団体優勝】

- 1位 本部・玉村合同チーム
- 2位 高経附チーム
- 3位 大泉チーム 家族サービスの場でもあります

